

森のちやれんがニュース

2023 冬

Newsletter vol.34



博物館は、展示を見るだけじゃない！ はっけん広場であそぼう！

はっけん広場とは、ヒグマやエゾシカなどの本物の毛皮や、化石、昔なつかしい道具やおもちゃ、アイヌの着物などといった「はっけんキット」を使って、自由に遊べる無料のスペースです。博物館ならではの、ほかにはない体験ができます。靴を脱いで過ごせる畳やマットがあるので、小さなお子さんも座ったり寝転がったりして、くつろいでください。はっけん広場だけに遊びに通うのもアリです！はっけん広場ではお天気に左右されずに遊べます。ついでに周辺の野幌森林公園に探検に行

くこともおすすめ。館内には、飲食スペース（持ち込み可）や授乳に使える部屋、おむつ替え台、貸し出しベビーカーなどももちろんありますので、お子さまと安心してお越しください。はっけんキットを手にとってみて、なにか気になったことがあれば、はっけん広場にいる解説員に聞いてみましょう。土日祝には、季節ごとの工作ができるはっけんイベントも開催しています。

（学芸員 渋谷美月）



はっけん
広場



館内
のご案内

CONTENTS

- ② 収蔵資料紹介
ある日、豊平川河川敷に舞い降りた落下傘 らっかきん
- ③ 総合展示資料紹介・第1テーマ
第四紀の北海道のようすを表す「古地理図」
- ④ 研究活動紹介
身近な歴史から大きな歴史に
- はっけん広場
はっけんイベント「くるくるピクチャー大作戦！ 縄文編」
トピックス
めざせ、学芸員！コロナ禍明けの博物館実習
- ⑦ アイヌ民族文化研究センターだより
北海道博物館第17回アイヌ文化巡回展・釧路市立博物館企画展「久保寺逸彦～釧路が育んだアイヌ文学研究の泰斗～」の開催
- ⑧ 活動ダイアリー
2023年9月～2023年11月の記録

収蔵資料紹介

ある日、豊平川河川敷に舞い降りた落下傘

らっかさん

池田 貴夫

学芸部長

私は、1997（平成9）年8月1日に当時の北海道開拓記念館（現在の北海道博物館）に赴任し、以来、約26年間にわたり学芸員としてさまざまな博物館活動に携わらせていただきました。そのなかでも、資料の収集活動は思い出深い仕事の一つでした。

モノを寄贈したいとの電話を受けます。実際に、そのお宅に赴いて、モノを見せていただきます。あわせて、さまざまなお話を聞かせていただきます。そのうえで収集するか、辞退するかを検討してきました。そして、お話をうかがうなかで、「磨けば磨くほど黄金に輝く時計」、「私の命よりも大切

なビールグラス」といった、所有物へのさまざまな愛着の表現を耳にしてきました。資料の収集活動をとおして、モノを相手に仕事をするということは、人の心に耳を傾けることに他ならないということを学びました。

特に、下の落下傘に出会った瞬間は、強烈でした。この2つの落下傘は、2005（平成17）年に江別市在住の方から寄贈を受けたものです。寄贈者からの話によると、1930～31（昭和5～6）年頃、豊平川の花火大会で打ち上げられた花火から舞い降りてきた落下傘だったそうです。1921（大正10）年生まれの方夫が拾い、亡くなるまで、大事にとっておい

たといいます。また、夫は、この頃の花火大会では、この舞い降りてくる落下傘を子どもたちがこぞって拾ったと語り継いでいたようです。

約100年前、名も無き製作者がこの落下傘づくりに込めた思い。これを子どもの頃に拾い、一生をかけて保管し続けた寄贈者の夫の思い。これを博物館に託そうとした寄贈者の思い。この2つの落下傘を凝視していると、それらの思いがなんとなく伝わってくるような気がするの、私だけでしょうか。そして、そういった人びとの心の連鎖さえも、語りかけてくれている気がしてならなかったのです。



㊤サイズ：高さ63cm×幅46cm 材質：紙 形状：袋状 収蔵番号：152053

㊦サイズ：高さ113cm×幅36cm 材質：紙 形状：袋状 収蔵番号：152054

総合展示資料紹介・第1テーマ

第四紀の北海道のようすを表す「古地理図」

久保見 幸

研究部自然研究グループ 学芸員

第1テーマ「北海道120万年物語」の地学展示コーナーでは、「大地のなりたち」をテーマに、約120万年前から現在まで（第四紀）の化石や北海道の成り立ちについて展示しています。今回は、その中でも特に注目して見ていただきたい北海道の「古地理図」についてご紹介します。

第1テーマに入ってすぐ左手には、ステラダイカイギュウやバイソンの化石が展示されており、それらのケースの後ろの壁面には、北海道の古地理図のパネルが2枚展示されています。古地理図とは、地質時代のある時期における自然地理的状况を表現した図です。地層の分布、産出する微化石や動植物の化石、岩石に含まれる鉱物の放射年代、および古地磁気などの研究結果を総合し、海陸の分布や地形、海岸線の状況などを推定して作成します。

写真1を見てみると、現在の北海道の姿とは大きく異なることがわかります。この図では、白色部分が当時の陸地を表しており、点線部分が現在の海岸線を表しています。現在の札幌市や北広島市周辺には、主に砂や泥が積み重なった地層が分布しており、ホタテガイなどの貝の仲間やステラダイカイギュウおよびヒゲクジラなどの大型動物の化石が産出します。また、地層中の軽石に含まれる鉱物（ジルコン）の放射年代を測定することで、この地層が堆積した年代が約100万年前であることが分かっています。これらの研究結果から、約100万年前の札幌市や北広島市周辺は海の環境であったと考えられています。また、寒い海域に棲んでいた貝の化石が見つかっており、当時は寒冷な気候だったこともわかっています。

一方、写真2は、約21万年前の北海道周辺のようすです。写真1とは異なり、現在の北海道の姿に近い形をしています。この頃の地層からは、マンモ

スゾウの祖先やバイソンの大型化石および温暖な海域に棲む貝の化石などが産出し、約100万年前よりは暖かい気候であったことがわかっています。このように化石標本とそれらの後ろにあ

る古地理図を併せて眺めると、第四紀の北海道周辺のようすが詳しくわかってきます。ぜひこのニュースを持って、当館の地学資料をじっくりとご覧ください！



写真1 寒冷期の北海道（白色の部分は、約120万年前の陸地、線は現在の陸地）



写真2 温暖期の北海道（白色の部分は、約21万年前の陸地、線は現在の陸地）

〈参考文献〉 圓谷ほか 2018. 北海道北広島市西の里で認められた第四系の地質年代.
北海道博物館研究紀要 3: 143-161.

研究活動紹介

身近な歴史から大きな歴史に

石子智康

研究部歴史研究グループ 学芸員



1996年札幌市生まれ。2021年早稲田大学大学院修了。2023年より当館学芸員。専門は日本近現代史。写真は当館で展示している「北海道国郡全図」の前にて。

石子慶治郎。写真1に見られるこの名前は、私の曾祖父にあたる人物です。この史料は、1935(昭和10)年8月1日現在の樺太庁職員を記載した『樺太庁職員録』であり、1935年当時、豊原区裁判所留多加出張所の裁判所書記として勤めていたことが読み取れます。この後は、樺太北部に位置する恵須取で代書業を行い、終戦後は北海道へ引き揚げてきたと聞いています。恵須取からの引揚者団体は、戦後に『恵須取在住者名簿』を作成しており、この名簿には曾祖父、そして祖父の名前も記載されていました。名前を発見したときには、私の先祖が樺太在住であったと強

く実感したことを覚えています。曾祖父は私が生まれる前に他界しており、樺太へ移住した経緯や樺太での生活を直接聞くことはできませんでしたが、祖父や父から断片的に樺太に関しての話を聞く機会があり、樺太に興味を持ちました。このように私自身のルーツとして樺太を意識し、これまで樺太の歴史について研究してきました。



樺太とは、現在はサハリンとよばれている地域であり、北海道の宗谷岬から約43キロメートル北に位置しています。1905(明治38)年の日露戦争の講和条約であるポーツマス条約によって、



恵須取は日本領有当初、小さな漁村でしたが、1925(大正14)年に樺太工業の製紙工場が建設されたことにより、急激な発展を遂げた町です。恵須取の付近一帯には大平炭鉱といった炭田があり、終戦時には約4万人まで人口が増加し、樺太の中でも随一の都市となりました。都市として成長し、樺太内でも一二を争う人口を有していた恵須取ですが、主要な交通手段は船舶であり、冬季は結氷するという欠点がありました。写真2は、『樺太概要 昭和8年』にある「樺太交通略図」であり、この時期の交通状況を示している地図です。先述したように、恵須取は樺太の西海岸北部に位置していますが、西海岸の鉄道は樺太中部の泊居まで敷設され、久春内までが予定線となっています。つまり恵須取に他都市と結ばれた鉄道がなく、鉄道敷設の予定もなかったこととなります。このような交通状況の改善をはかるため、1933年恵須取町民は鉄道敷設の請願書を帝国議

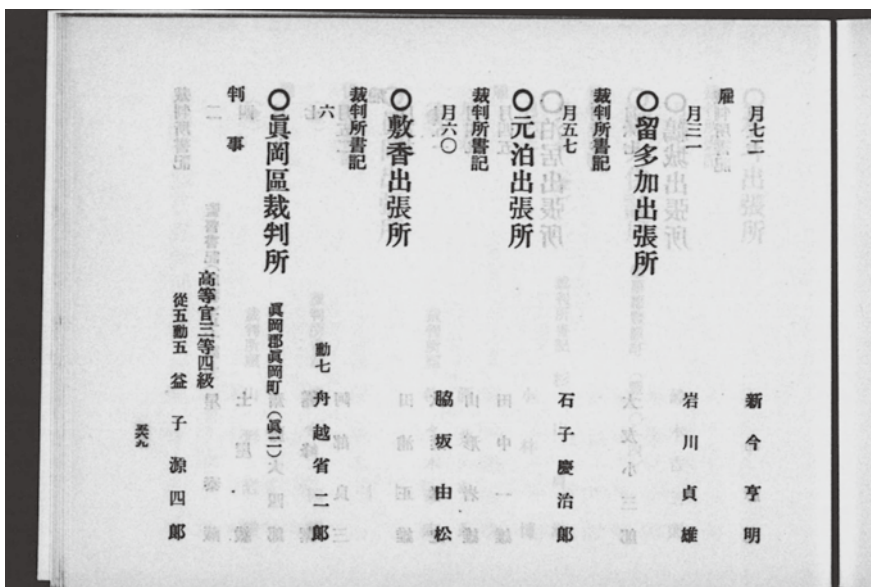


写真1 『樺太庁職員録』昭和10年8月1日現在。樺太庁長官官房秘書課。1935.9.
国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/1272973>
(参照 2023-11-27) ※一部抜粋

会へ提出します。以下が請願書の内容です。

樺太西海岸北部ニ於ケル代表都市建設地トシテ有望ナル各条件ヲ具備スル恵須取町ハ多年ノ懸案トシテ北部横断鉄道ノ敷設実現ヲ熱望シツツ(中略)樺太開拓上並ビニ軍事上ニモ重要地点タルヲ失ハス更ニ本鉄道ノ速設実現ハ樺太交通機関利用上ノ一大眼目トスル循環鉄道実現ニ至大ナル効果ヲ挙クルモノト確信シテ疑ハザル実情ニアリ依テ恵須取、内路、敷香ヲ結ブ北部横断鉄道ノ敷設アランコトラ
右及請願候也¹

請願書の内容からは、同じ北部に位置している敷香^{しすか}へつながる北部横断鉄道の敷設を目指していたことが読み取れます。また恵須取町民は、鉄道敷設の請願書とともに、恵須取港修築に関しても請願を行っています。樺太庁はこの請願^{おおどまり まおか ほん}に対して、大泊、真岡、本斗といった南部の港湾修築、他の鉄道路線の敷設を優先する見解を示しています。帝国議会の請願委員会では、樺太庁の見解を踏まえた上で、請願の実現は厳しいとしながらも、「此方面ニ於ケル人々が、大ニ此不便ナ地域ニ行ッテ奮闘シテ居ル人々ニ対スル将来ノ光明トシテ、国家ハ此請願ヲ認メテ置ク方ガ、幾何心強イ感ジヲ与ヘルモノダラウ」として、恵須取の人々に希望を与える意味で請願が採択されました²。

その後、同年の樺太拓殖調査委員会による答申では、鉄道建設計画説明の項に「鉄道ハ庁鉄西海岸線泊居、恵須取間ノ延長工事(延長一七七・三杆、工費千四百六十三萬余圓)ヲ第一着手トシ」とあり、恵須取への鉄道敷設が計画に盛り込まれました³。しかしながら、鉄道は敷設されずに、終戦をむ

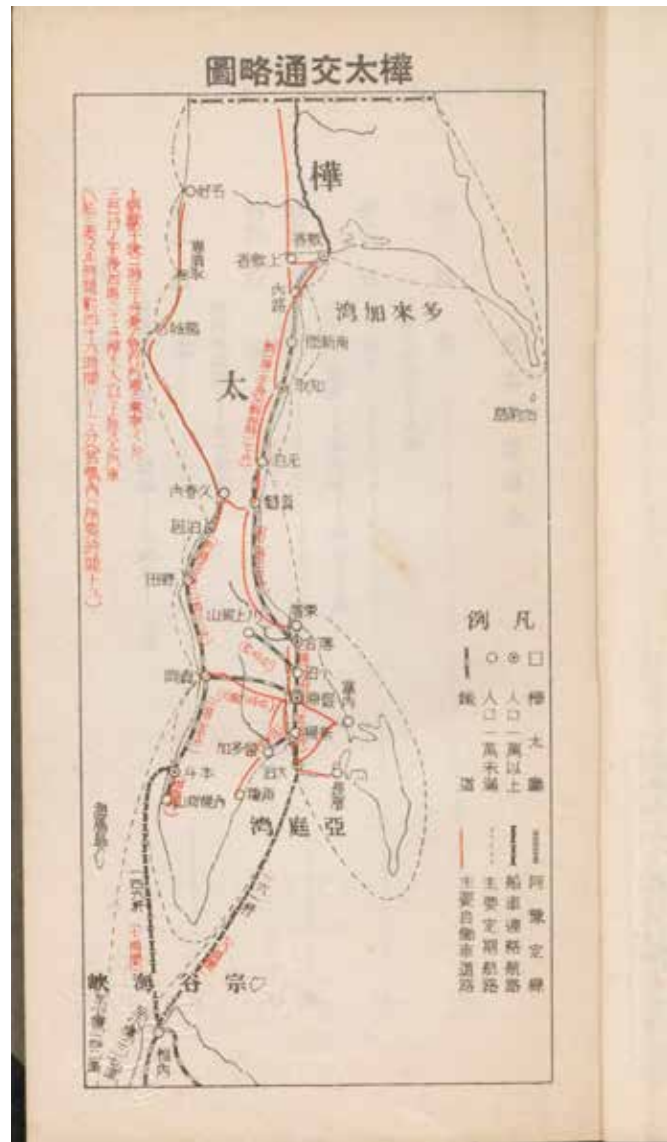


写真2 樺太庁 編『樺太概要』昭和8年、樺太庁、昭和8。国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/1209061> (参照 2023-11-27) ※一部抜粋

かえることとなりました。



今回は、鉄道敷設の請願書から恵須取町について紹介いたしました。日本史の大きな流れの中で、このような請願運動は、表面化することはありませんが、請願書提出に関わる動きを通して、交通問題に課題を抱えていた恵須取町民の生きた姿を垣間見ることができます。今後も身近な歴史としてある樺太を、単なるファミリーヒストリーにとどまらず、歴史学としてさまざまな角度から研究を進めていきた

いと思います。

引用文献

- ¹ 樺太庁「請願書」(樺太庁『説明資料』、北海道立文書館所蔵)
- ² 『帝国議会議院委員会会議録 昭和編三一 第六十四回議会 昭和七年』、306頁
- ³ 「樺太拓殖調査委員会ヲ廃止ス」JACAR (アジア歴史資料センター) Ref. A01200647300、公文類聚・第五十七編・昭和八年・第六巻・官職五・官制五(鉄道省・拓務省)(国立公文書館)

はっけん広場

はっけんイベント「くるくるピクチャー大作戦！ 縄文編」

みなさん、コロナ禍前の2019年開催「くるくるピクチャー大作戦！」をおぼえていますか？ 1枚の紙の表と裏にちがう絵をかき、くるくるまわすと目の錯覚でふたつの絵がかさなって見える…木製冷蔵庫の中に飲み物、糞突き棒と和式便器など、展示室のものをくるくる回してみてもいいですね。

今回は特別展『北の縄文世界と国宝』にあわせて、基本形は「縄文くん」と

いう男の子が登場し、千歳市ママチ遺跡出土の土面をかぶっているように見えるくるくるピクチャーでした。応用形としてオリジナル仮面を自分で描くピクチャーもありました。

オリジナル仮面の参考となるよう、全国各地の縄文遺跡から出土したお面と地図もホワイトボードにはり、見ていただきました。

でも縄文にこだわらず、オリジナル

な発想でさまざまな仮面をえがいてくるくるまわして、縄文くんはいろんなお面をかぶりしました。

目の錯覚を利用したくるくるピクチャーはもつともつと別のものでもできそうですね。今後またお会いするかもしれないくるくるピクチャー、記憶にとどめていただければうれしいです。

(解説員 今村ゆみ子)



トピックス

めざせ、学芸員！コロナ禍明けの博物館実習

8月15日(火)から25日(金)までの10日間、北海道内外の各大学から20名の博物館実習生を受け入れ、博物館実習を実施いたしました。

初日はガイダンスや館長講話、収蔵庫見学の後、野外博物館「開拓の村」で展示や資料施設管理について学び、2日目から6日にかけて、各研究グループの調査研究の対象となっている資料や研究手法などについて学びました。

実際の資料整理やキャプション作りなどの作業も体験しました。4日目の午後には2017年以来となる、実習生によるオーディエンスリサーチも行われ、実習生は来館者の動向調査と、聞き取りによる出口調査を懸命に行っていました。

7日目から9日目には当館に収蔵されている資料を用いて、展示制作実習も行われました。展示制作は5人1グループで行い、今年度は「焼き物」をテー

マにして各グループの伝えたいことや、展示のストーリーを考えながら、グループ毎に工夫を凝らした展示を制作しました。最終日には各グループで制作した展示の意図や工夫した点などについてプレゼンをし、意見交換も行いました。実習生展示は1階展示室で9月15日まで公開されました。

実習生たちからは「学芸員の仕事が多岐にわたることや、博物館資料の大切さなど、中身の濃い実習となりました」などの感想が聞かれました。

(総務部企画グループ
学芸員 成田敦史)



生活文化資料の実習風景



展示制作実習のようす

アイヌ民族文化研究センターだより

北海道博物館第17回アイヌ文化巡回展・釧路市立博物館企画展「久保寺逸彦～釧路が育んだアイヌ文学研究の泰斗～」の開催

1 開催のきっかけ

釧路市立博物館のマンモスホールと特別展示室を会場に、11月18日より「久保寺逸彦展」を開催中です。アイヌ文化に関心のある方は特に、アイヌ文学研究などにおいて大きな足跡を残した久保寺逸彦（1902～1971）の名前やその業績について聞いたことがあるかと思いますが、なぜ釧路で開催するのか、と思われるかもしれません。

約10年前のことになりますが、前職の北海道大学アイヌ・先住民研究センターの博士研究員時代に同センターで、北海道立アイヌ民族文化研究センターとの共催で開催した資料展「久保寺逸彦－アイヌ文学研究の足跡」(2014年3月10日～23日)があり、私自身はその時初めて久保寺逸彦という人物について知ることになりました。直接のきっかけになったのは、4年ほど前のこ

と、ある市民の方が『釧中物語一ふるさと開く湖陵人脈一』（釧路新聞社、1977年）を私に貸してくださったことです。旧制釧路中学校（現北海道釧路湖陵高等学校）の卒業生や、同校にまつわる様々なエピソードが紹介されているなかに、久保寺逸彦が寄稿した文章があることを知りました。久保寺が釧中に在学していたことを知ってはいましたが、釧路時代の思い出についてこれほど様々に書かれているのだから、ぜひ彼のことをこの釧路で紹介したい、という思いに駆られました。そして、昨年度の北海道博物館での「蔵出し展 久保寺逸彦文庫」での成果を主に活用させていただき、研究センターの皆様の多大なご協力のもと、無事に釧路で開催できていることに感謝しています。

2 展示の概要

北海道博物館での「蔵出し展」では、久保寺逸彦文庫全体の圧倒的なスケール感が印象的でした。当館では、スペース的な制約、そして釧路で開催することの意義を勘案し、釧中時代に関わるものや、釧路とその周辺地域での調査関係の資料を多く展示しています。導入展示（写真1）では、数ある写真資料のなかから、久保寺自身が写った写真と、1954年、1966年に調査のため来釧した際に撮影された釧路市内や周辺地域の写真を展示しています。メイン展示（写真2）では、網走で生まれてからの久保寺の生い立ちから、それぞれのライフステージに特徴的な研究成果などを時系列で紹介し、その人となりや研究関心の移り変わりなどを追っていくような構成としました。会期は2月4日まで、関連行事として講演会やアイヌ語講座も開催予定です。

（釧路市立博物館 学芸員 城石梨奈）



写真1 導入展示（マンモスホール）のようす



写真2 メイン展示（特別展示室）のようす

「久保寺逸彦 釧路が育んだアイヌ文学研究の泰斗」

会 期：2023(令和5)年11月18日(土)～2024(令和6)年2月4日(日)
休館日：月曜(月曜祝日は翌火曜日)
会 場：釧路市立博物館 マンモスホール(無料)、特別展示室(要入館料)
詳しくは本展ウェブサイトへ



活動ダイアリー

2023年9月～2023年11月の記録

※■は展示活動、■は教育普及活動、■はその他の博物館活動です。

9月3日(日)

■特別展開連行事 ミュージアムカレッジ「『北の縄文世界と国宝』展ができるまで」を開催。
担当：鈴木琢也・尾曲香織・鈴木あすみ。

9月9日(土)

■連続講座「ちゃれんが古文書クラブ⑦」を開催。担当：三浦泰之・東俊佑。

9月10日(日)

■特別展開連行事 特別イベント「手のひらサイズの土偶 or 縄文土器をつくろう！」主催：北の縄文世界と国宝展実行委員会、運営：ドニワ部。

9月16日(土)

■特別展開連行事 特別イベント「『北の縄文世界』を知る」。講師：藤原秀樹氏（北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課）、村本周三氏（北海道環境生活部 文化局 文化振興課縄文世界遺産推進室）、鈴木琢也。

9月27日(水)

■館内定例研究報告会を開催。発表者：甲地利恵。

9月30日(土)

■化石の日関連展示「北海道の恐竜時代の化石～バラリテリジノサウルスとアローカリア～」を開催（10月31日(火)まで）。【写真1】

9月30日(土)

■特別展開連行事 特別講演会「～ありがとう&さよなら～『カックウの全てを語る』」を開催。主催：北の縄文世界と国宝展実行委員会、講師：阿部千春氏（北海道縄文世界遺産推進室特別研究員）。

9月30日(土)

■連続講座「ちゃれんが古文書クラブ⑧」を開催。担当：三浦泰之・東俊佑。

10月1日(日)

■第9回特別展「北の縄文世界と国宝」閉会。

10月1日(日)

■「第16回アイヌ文化巡回展 in 奥尻町」、「北海道博物館 総合研究プロジェクト「北海道の離島における自然・歴史・文化に関する研究」成果報告展」を開催（10月22日(日)まで）。（奥尻町海洋研修センター）【写真2】

10月7日(土)

■はっけんイベント「作ってならそう「ゲロゲロガエル」」を開催（10・11月の土・日・祝・振）。

10月7日(土)

■ミュージアムカレッジ「アイヌ語アーカイブを使ったアイヌ語学習」を開催。担当：吉川佳見。

10月13日(金)

■総合展示室クローズアップ展示①、②を展示入替。
①地図に描かれた幕末のカラフト島とエトロフ島
②北海道の双六あれこれ

10月15日(日)

■ミュージアムカレッジ「カラフトナヨロ文書とアイヌ乙名の両属をめぐる」を開催。担当：東俊佑。

10月21日(土)

■連続講座「ちゃれんが古文書クラブ⑨」を開催。担当：三浦泰之・東俊佑。

10月25日(水)

■館内定例研究報告会を開催。発表者：右代啓視。

10月28日(土)

■連続講座「アイヌ語講座オンライン「アイヌ語の物語を読む①」」を開催。担当：遠藤志保・吉川佳見。

10月29日(日)

■特別イベント「アイヌ音楽ライブ マレウレウコンサート」を開催。演者：MAREWREW（マレウレウ）。

10月31日(火)

■「キノコ展 in 北海道博物館 ～キノコの多様性と自然界での役割～」を開催（12月3日(日)まで）。主催：北海道キノコの会・北海道博物館。【写真3】

11月3日(金・祝)

■講演会「アイヌの隣人たち～ウイルトのことばを学ぶ」を開催。講師：山田祥子氏（室蘭工業大学）。【写真4】

11月5日(日)

■子どもワークショップ「親子で探検！森のコレクションをつくろう」を開催。担当：鈴木あすみ・表溪太・久保見幸・櫻井万里子。

11月11日(土)

■連続講座「ちゃれんが古文書クラブ⑩」を開催。担当：三浦泰之・東俊佑。

11月12日(日)

■子どもワークショップ「稲わらで縄をつくって、巨大人間あやとりに挑戦！」を開催。担当：池田貴夫・舟山直治・尾曲香織・表溪太。【写真5】

11月18日(土)

■第17回アイヌ文化巡回展・釧路市立博物館企画展「久保寺逸彦～釧路が育んだアイヌ文学研究の泰斗～」を開催（2024年2月4日(日)まで）。（釧路市立博物館）【写真6】

11月19日(日)

■連続講座「ちゃれんが地学講座①」を開催。担当：成田敦史。

11月25日(土)

■連続講座「アイヌ語講座オンライン「アイヌ語の物語を読む②」」を開催。担当：遠藤志保・吉川佳見。



写真1



写真2

11月26日(日)

■ちゃれんがワークショップ「恐竜やアンモナイトがいた頃の岩石を使って、地質図をつくってみよう！」を開催。担当：久保見幸・成田敦史。【写真7】

11月29日(水)

■館内定例研究報告会を開催。発表者：奥田統己。



写真3



写真4



写真5



写真6



写真7

来館者数

○2023年9月～2023年11月

総合展示室 45,504人 特別展示室 25,297人 はっけん広場 1,049人

○累計(2015年4月～2023年11月)

総合展示室 811,956人 特別展示室 568,296人 はっけん広場 124,308人

森のちゃれんがニュース 第34号

発行日：2024年1月10日

編集・発行：北海道博物館

〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2

Tel. (011) 898-0456 Fax. (011) 898-2657

ウェブサイト <https://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp>

©Hokkaido Museum, 2024